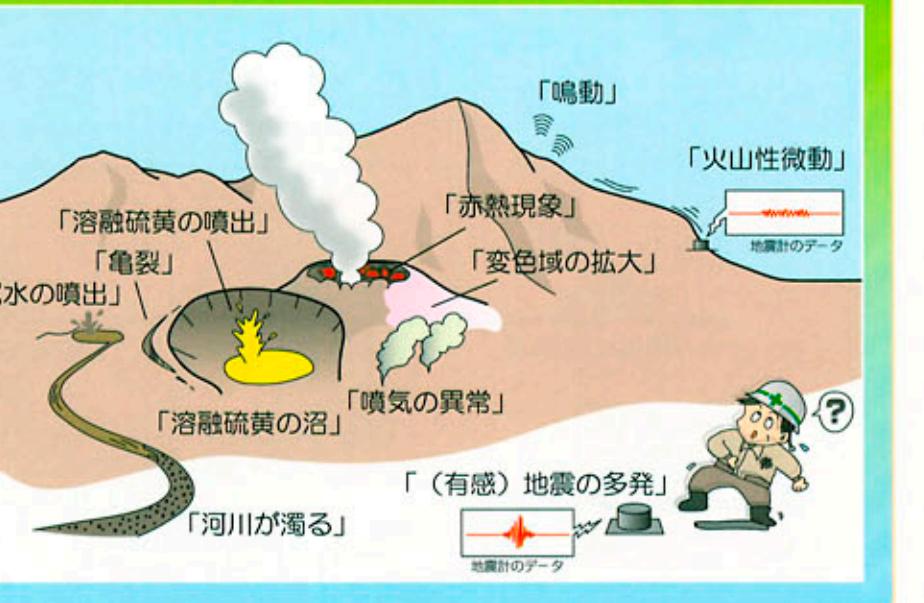


十勝岳で予想される火山活動の進み方

異常現象発生期

十勝岳では様々な異常現象が起きることがあります。噴煙などが普段と異なるように感じた時には、関係機関に連絡してください。



終息・静穏化

大半は、噴火に至らずに静穏化するか、または小噴火のみで中～大噴火に発展せずに終息します。



噴火の大きさのめやす
小噴火：1988～1989年噴火規模
中噴火：1926年噴火（大正噴火）や、1962年噴火の規模
大噴火：約3500年前の噴火規模

小噴火期

地下水が熱せられると、水蒸気爆発が起ります。火口周辺の岩が砕けて、飛び散ります。マグマが地下水と接触すると、マグマ水蒸気爆発が発生します。

小噴火の場合の火山ハザードマップ



様々な火山災害現象

★★生命への危険が大きく避難が必要な現象

噴石（火山弾）



有珠山の噴火で噴石の吹草により屋根に穴を開いた建物
● どのような現象？
振りこぶしよりも大きな岩塊が弾道を描いて飛んでいます。中～大噴火では、吹上温泉や望岳台付近まで到達する恐れがあります。
● 被害を防ぐには？
・丈夫な建物の中に避難
・外ではヘルメット着用

★★注意を要する現象

火山灰（降灰）



十勝岳の噴煙を想定した予測CG
● どのような現象？
碎けたマグマや岩石が噴煙となって吹き上げられ、火山灰が降り積もります。視界不良やぬかるみで車の走行は難しくなります。
● 被害を防ぐには？
・マスクやゴーグルなどを着用（目の保護など）

火碎流 火碎サージ



十勝岳の火碎流を想定した予測CG
● どのような現象？
火碎流は熱い岩石や破片が車より速く流れ下る現象で、巻き込まれると死します。火碎サージ（熱風）は更に遠くまで吹き、小噴火でも望岳台付近まで到達することがあります。
● 被害を防ぐには？
・山に雪がある時に噴火したら速やかに避難

融雪型火山泥流



十勝岳の噴火による火山泥流で氾濫した川の様子
● どのような現象？
積雪期に火碎流などが発生し、雪が急に融けると泥流が発生します。麓の市街地であふれて広がる恐れもあります。
● 被害を防ぐには？
・山に雪がある時に噴火したら速やかに避難

★★注意を要する現象

溶岩流



十勝岳の溶岩流を想定した予測CG
● どのような現象？
高熱の溶岩（マグマ）が斜面を流れます。速さは人が歩く程度です。沼地や川に流れ込むと激しい爆発を起こすことがあります。
● 被害を防ぐには？
・立ち寄りて避難

降雨型泥流（土石流）



● どのような現象？
大量の降水が原因で土砂や泥水が入り交じって流れ下る現象です。灰が積もると降雨型泥流が発生しやすくなります。
● 被害を防ぐには？
・降雨時には泥に近寄らない

火山ガス

● どのような現象？
火口や割れ目から、有毒ガスが吹き出します。
● 被害を防ぐには？
・火山ガスがたまりやすい凹地や火口、割れ目などには近づかない

★まれに起きる現象

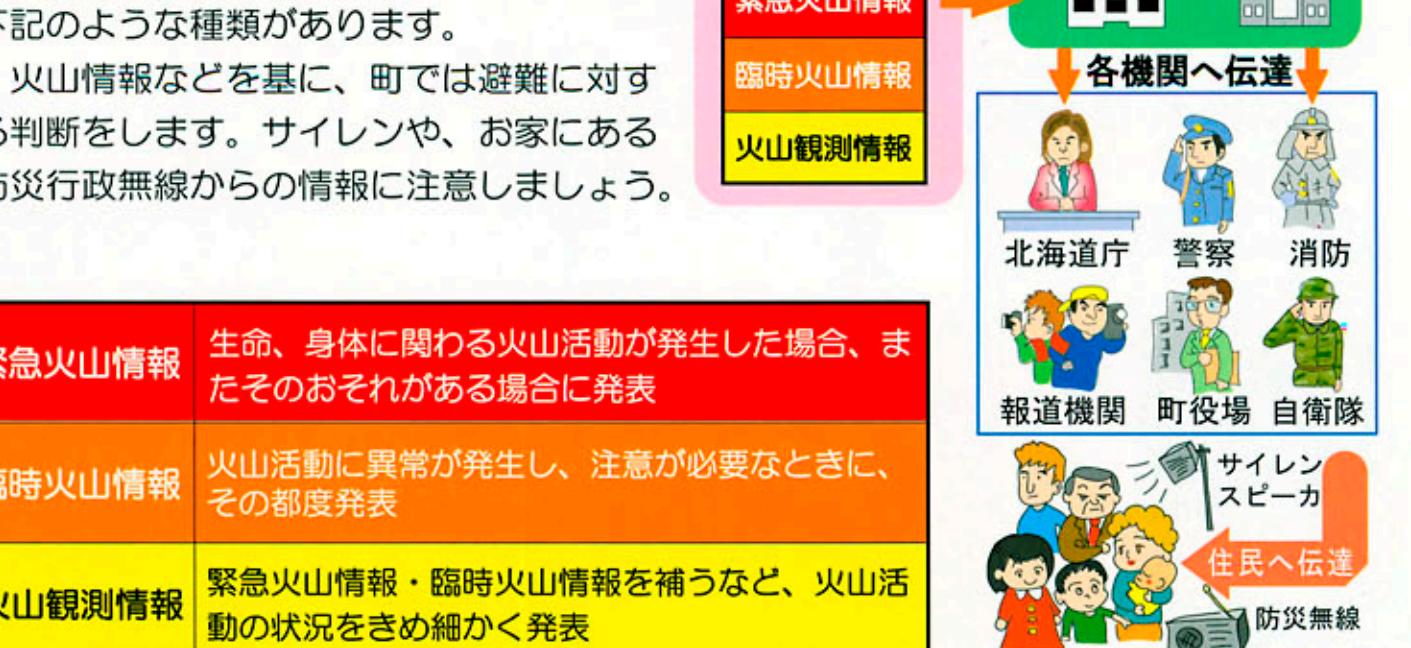
岩屑なだれ

● どのような現象？
爆発で山の一部が崩れ、岩なだれが起きる現象です。（大正噴火で発生）



気象庁の火山情報と伝達

火山情報伝達の流れ



十勝岳の観測体制

十勝岳周辺に設置されている主な観測機器

地震計

小さな地震も記録するので、火山活動の動きをいち早くキャッチします。泥流などによる振動もキャッチします。

GPS

目に見えない山の伸び縮みを観測し、火山活動による地形の変異をとらえます。

GPS

目に見えない山の伸び縮みを観測し、火山活動による地形の変異をとらえます。

監視カメラ

火山の様子や泥流・火碎流の動きを、常に見ることができます。

空振計

噴火による空気の振動を特殊なマイクで感知します。火口が見えない時には、噴火発生を知る手段になります。

噴火の前兆をとらえて災害を軽減するために、国・道・町が様々な観測機器で十勝岳を監視しています。大学も噴火予知などを目指した基礎研究の対象としています。

